

加渡 いづみ

## バトンをつなげる

新型コロナウイルスとの闘いが始まってから2年が過ぎました。新たな変異株が登場し、先行きの不透明さは増すばかりです。そのような状況が続く中では、これまでの常識が通用せず、過去の延長線上に「当たり前」の未来を描くことができません。まさに、ポストコロナの時代は、「VUCA時代」なのです。

VUCAとは、最近ビジネスの世界でよく耳にするようになりましたが、V(Volatility: 変動性)、U(Uncertainty: 不確実性)、C(Complexity: 複雑性)、A(Ambiguity: 曖昧性)の4つの単語の頭文字をとった造語です。変化が激しい不確実な時代にあって、私たち消費者は次の時代にどのようなバトンをつなげていかなければならないのでしょうか。エシカル消費は、一つひとつの商品に込められたストーリーを意識し、地域社会の人と資源と環境を、より良い状態で次の世代へとつなげることを目指しています。それは、まだ行ったことのない国や、まだ

会ったことのない人たちの暮らしを守ることであり、何よりも自分自身を大切にすることでもあると思っています。

京都の祇園四条の駅近く、白川筋に私の大好きな店があります。エシカルな商品を取り扱うセレクトショップで、一見それらがリユースやリサイクルによる商品だとは気が付きません。まさに、それぞれの商品の背景や文化、使い手の価値観を尊重し、次の使い手へとバトンをつなげることをコンセプトとしたお店です。コロナ禍でしばらく訪れることができず残念ですが、京都に行く度に毎回足を運んでいます。



将来の予測が難しい、あるいは旧来の当たり前が通用しないVUCA時代だからこそ、私たちには確実に思いをつなぐバトンが求められます。首都圏一極集中から地方分権へ、仕事至上主義のバリキャリからワークライフバランスのゆるキャリへ、そして使い捨て経済からエシカルで支える地域循環型経済へ、目の前の地域社会は今大きく変化しています。

エシカル消費には、これしかないという正答はありません。様々な価値観を認め合い、尊重し、消費行動を通してつながっていくことが、エシカル消費の醍醐味でもあります。消費行動は投票行動でもあり、生産者から受け取ったバトンを、次の時代や人につなげることでもあります。エシカル消費が、ポストコロナの時代に地域社会を支える大きな原動力となることを信じて止みません。

